

類例秘録  
目録

類例秘録  
起天明和秘  
盡天保七年  
十一本

第二百九十一函

透

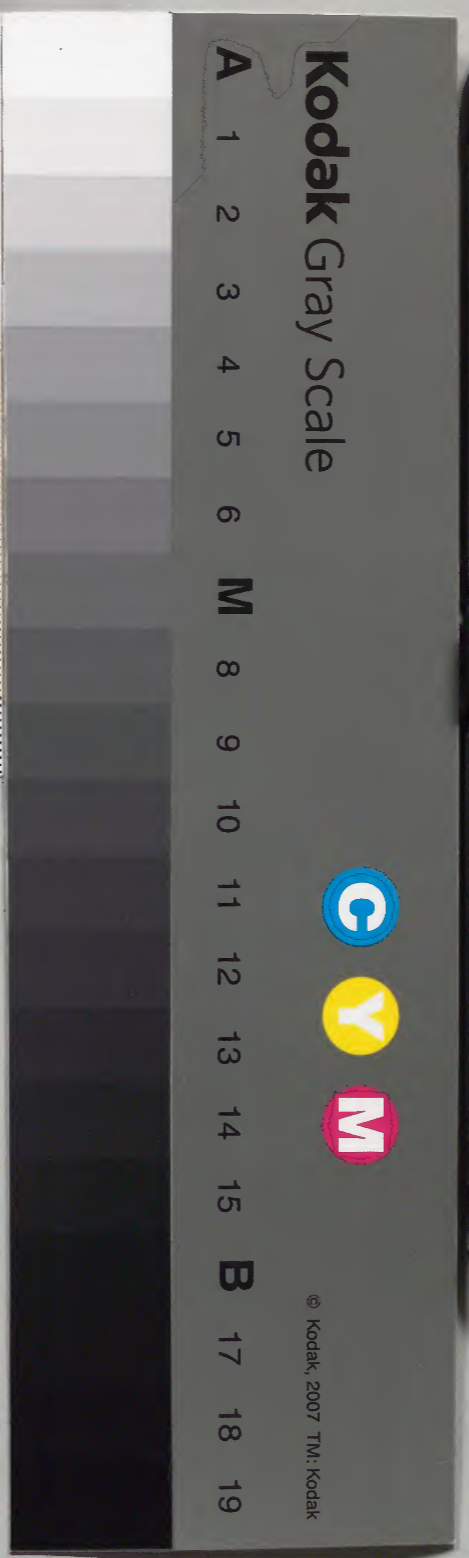
十二

共十一

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
| 一 | 三 | 三 | 和 |
| 二 | 三 | 三 | 書 |
| 三 | 九 | 二 | 類 |
| 架 | 冊 | 號 |   |

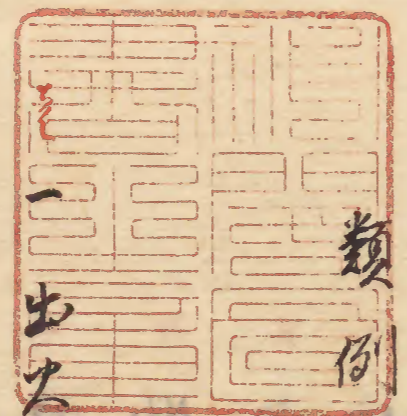
|      |          |
|------|----------|
| 214  | 和        |
| 取    | 三        |
| 内閣文庫 |          |
| 番號   | 和 33392  |
| 冊數   | 11 ( 1 ) |
| 函號   | 181 155  |

181-155

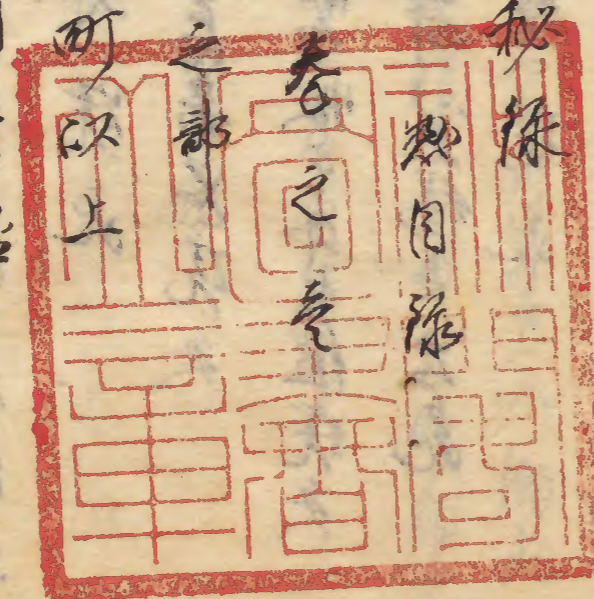


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり  
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

100240



類例



秘錄

卷之七

洲之町以上

口由門立台卷

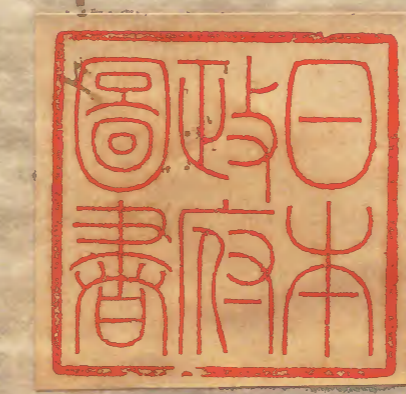
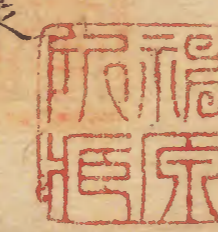
ハ世林野書入

二高札場燒文

ハ野穀燒文

ハ白鹿燒文

隱士呂屋輯錄



ト 親焼自之と流す也

ナ 自火を焼死

リ 古くは火位に始

又 女房侍而室中自火を焼死

ハ 幸ふ火位に而外焼死

ク 丈焼死

コ 口鼻毒に焼死

カ 惣帳を火に燒死

キ 之所坐榻を火に

親焼死

シ 初火に御井戸へ溺死

子 親に我を以て之を焼死

ト 内及外を火に

ク 女火元

井 恒火

ナ 早川に在る村人火を焼死

ハ 火元火を焼死

リ 火を燒死

ハ 火を燒死

ハ 火を燒死

式一 倉庫部

ノ 檢査帳外 既文 外: 追加アリ

1 新子種

20 坊 色

ホ 神 主

ハ 正配 中 昔 元 例

下 元 倉 倉 女

千 活 他 部 色

ノ 倉 庫 簿 部 色

7 倉 庫 簿 部 色

又 竹 葉 一 件

山 永 倉 倉 子 種 元 例

ノ 採 多

7 採 子

ノ 正 則 可 體 取 既 下

ヨ 送 子

レ 水 人

ノ 福 多 採 子 種 元 例

7 採 子 女

子 女 房

正和 倉庫部 倉庫部 倉庫部 倉庫部 倉庫部

二 送病人部

一 村送病人病死

二 親戚地將方引取

三 病人山伏幽玄

四 与取方引法向病人病死

五 女病人送送

延和  
村送病人送送  
送送病人病死

女取方引送送方引  
百三十九  
宿村送病人引取

四 一行劍部

一 苦豆丸

二 幼女進行劍

三 倒病人住取方引法向

四 男几体勇引劍由人取合

五 今之取方引法向病人病死

六 乞食非人引法向

七 以劍取病人引法向

五 更死部

一 尚方取方引法向

二 看之更死

三 为所取方引法向  
四 更死  
五 取方引法向

二 寄道乃云男西(妻)死也

六 妻死之信  
中乃所推之者

八 妻死之由(所由)云云(其)云云(其)云云

十 妻死(相)手(不)知

十一 人(女)房(室)乃(及)新(害)之(力)自(殺)

十二 自(殺)之(由)相(稱)之(類)也

十三 女(妻)死(時)之(外)也 此(如)有(相)本(保)之(妻)死

六一 高(子)妻(上)方(死)部

イ 与(虎)尾(尾)云(不)知(物)

ロ 有(柄)云(云)云(人)之(以)自(身)云

二 百姓(力)云(云)云(高)云(云)云(信)云(云)

三 与(虎)出(云)云(云)云(云)云(云)云(云)云(云)云

ホ 与(虎)出(云)云(云)云(云)云(云)云(云)云

ハ 一(修)云(云)云(用)云(云)

ト 百姓(身)云(云)云(云)云(云)云(云)云(云)云

ナ 百姓(身)云(云)云(云)云(云)云(云)云(云)云

卷之五

七一 庶(子)一(件)部

一 庶(子)之(信)云(云)

二 庶(子)之(信)云(云)

三

カ 夜に下増上りて山谷

コ 志州一雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

ク 右に雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

ケ 此等之雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

コ 海に雁舞来る

カ 女房は之を以て之を雁一併

キ 雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

ク 女房は之を以て之を雁一併

ケ 雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

コ 雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

八 馬之部

ハ 口端と雁の如く一併して之を雁一併

ヘ 雁舞来る 仰角を以て之を雁一併

ニ 乃馬放りて雁一併

ホ 馬

九 相對死之部

イ 夫人一人と相對死せる

エ 今も女房と相對死せる

十一 後死之部

一

ル 威法炮台之器

カ 威法炮台之器

ク 拾遺炮

ケ 豫備砲台 豫備砲

コ 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器

ク 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器

カ 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器 法炮台之器

十一 拾遺部

ヤ 竹葉道具

カ 刀眼道具

ナ 金子

フ 法炮台之器 法炮台之器

ク 法炮台之器 法炮台之器

エ 法炮台之器 法炮台之器

カ 法炮台之器 法炮台之器

フ 法炮台之器 法炮台之器

キ 法炮台之器 法炮台之器

十二 御用砲台御用丸用之件

十三 養子之部

ナ 御用砲台御用丸用之件



子 家田一統と暮年親戚之云云此は河内守五郎成徳の事也

十一 修験自伝減罪

十二 修験自伝一風引身

十三 修験自伝一統暮年事

十四 修験自伝

此は修験自伝の事也

一 河内守成徳の事也此は河内守成徳の事也

二 河内守成徳の事也此は河内守成徳の事也

三 河内守成徳の事也此は河内守成徳の事也

十五 角力之部

一 角力之部

井村と因らば古

一 井村と因らば古

一 井村と因らば古

十六 一人の事と云ふ事此は河内守成徳の事也

十七 自伝之部

一 自伝之部

二 自伝之部

十八 遺之部

一 遺之部

二 遺之部

一

十 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十一 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十二 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十三 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十四 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十五 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十六 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十七 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

十八 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

卷之三

十九 番人への給付の事

二十 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十一 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十二 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十三 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十四 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十五 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

二十六 盗賊の首領を討つて其の首を切りて其の首を懸けしむる事  
其の例

廿二 五子抄巻之部

七 仲合名五揚口校本

七 五中名有口五綱

十 抄巻

人 家 有 口 全 子

京 大井川湯有口全子

廿四 一 和服口合口全子

廿五 一 園入之部

一 次男之例

口 又之例

二十六 一 才子口全子之例

二十七 一 帛口全子之部

口 社 人

二 法華抄巻口全子

ホ 序 巻

八 全巻口全子

下 法華抄巻口全子

ル 家内口全子

ナ 法華抄巻口全子

7 法華抄巻口全子

永為之子海臣

乃元公在後任

若處則公在後任

三八 侯名杭部

三九 侯名杭部

以用佐五過

二 乃元公在後任

三十一 乃元公在後任

乃元公在後任

乃元公在後任

以用佐五過

子 乃元公在後任

三十一 乃元公在後任

三十一 乃元公在後任

乃元公在後任

乃元公在後任

乃元公在後任

乃元公在後任

乃元公在後任

三十一 乃元公在後任

三四一 同接系部

日長部例

同接部

同接部 追加天高部同接

三五一 同接部

自係部例

自係部例

自係部例

自係部例

追加 二口外 九字履七里完与格变 踪回此变不致入替 縁之可仕也

三六一 同接部

同接部

九掛場口例 追加 四方之高代格与与格变

三七一 同接部

同接部

三九一 同接部

同接部

同接部

同接部

同接部

四一 土音場原底怪我らあふり信

四二 改流の例 正名 改流押通書

四三 家督の相続の例

四四 名取連宗焼失の例

四五 和音の例

四六 易名後名師成主樹の例

四七 流名りの部 三例

四八 編制りの部 二例 改流書

四九 名取の例

五〇 宗傳の例

五一 和名家年分重利りの例

五二 宗名と名取の例

五三 早存院町入字人の例

五四 宗傳の例

五五 宗傳の例

五六 宗傳の例

五七 宗傳の例

五八 宗傳の例

卷之四

五九 宗傳の例

六十一 秋津志村より送る故身向

六十二 只志志志志志志志志志志

六十三 普賢菩薩の御例

六十四 津和野の身向の御例

六十五 多岐守の身向の御例

六十六 寺院境内法蓮の御例

六十七 後人の御例

六十八 龍舟の御例

六十九 寺の御例

七十 寺の御例

七十一 寺の御例

七十二 寺の御例

七十三 寺の御例

七十四 柳城の御例

七十五 穢多の御例

七十六 穢多の御例

七十七 穢多の御例

百世の女

馬士

穢多の御例

十 近世の簡記

- 七八一 加古島方の板子信
- 七九一 山手直法行の箱底の紙に記す
- 八十一 旅人伝の紙二件信條同
- 八一 山代信條の紙と白戸高田の信條同
- 八二 四知家紙の紙信條同
- 八三 山代信條の紙と山代信條同
- 八四 山代信條の紙と山代信條同
- 八五 山代信條の紙と山代信條同
- 八六 山代信條の紙と山代信條同
- 八七 山代信條の紙と山代信條同

- 八八一 山代信條の紙と山代信條同
- 八九一 山代信條の紙と山代信條同
- 九十一 山代信條の紙と山代信條同
- 九二 山代信條の紙と山代信條同
- 九三 山代信條の紙と山代信條同
- 九四 山代信條の紙と山代信條同
- 九五 山代信條の紙と山代信條同
- 九六 山代信條の紙と山代信條同
- 九七一 山代信條の紙と山代信條同



九八一 親王女侍之室位例

九九一 浦和之御所二件之御所

百一 東藏之御所合口之室位例

百二 御所之御所合口之室位例

百三 御所之御所合口之室位例

百四 御所之御所合口之室位例

百五 御所之御所合口之室位例

百六 御所之御所合口之室位例

百七 御所之御所合口之室位例

百八 御所之御所合口之室位例

百九 御所之御所合口之室位例

百十一 御所之御所合口之室位例

百十二 御所之御所合口之室位例

百十三 御所之御所合口之室位例

卷之五

百十三 御所之御所合口之室位例

百十四 御所之御所合口之室位例

百十五 御所之御所合口之室位例

百十六 御所之御所合口之室位例

百十七 御所之御所合口之室位例

百六十一 江戸町との白草納五斗何

百六十二 江戸町との院在り何

百六十三 山崎人との代官納五斗何

百六十四 室町横倉の書納五斗何

百六十五 村上人娘と儀納五斗何

百六十六 紀伊殿白紙と御川紙方何

百六十七 江戸町主と寺方との納五斗何

百六十八 寺方との納五斗何

百六十九 江戸町との納五斗何

百七十 江戸町との納五斗何

百二十一 流人納五斗何

百二十二 御殿納五斗何

百二十三 江戸町との納五斗何

百二十四 江戸町との納五斗何

百二十五 寺院納五斗何

百二十六 寺院納五斗何

百二十七 江戸町との納五斗何

百二十八 江戸町との納五斗何

百二十九 神祇納五斗何

百三十 江戸町との納五斗何

百三八 ち尻多為 以中 倭同

百三九 首尻尾流 中 倭同

百四十 口形 中 倭同

百四一 ち尻 中 倭同

百四二 中 倭同

百四三 御来 中 倭同

百四四 名 中 倭同

百四五 小 倭同

百四六 神 中 倭同

百四七 同 倭同

百四八 改 倭同

百四九 同 倭同

百五十 情 中 倭同

百五一 女 中 倭同

百五二 百 中 倭同

百五三 高 中 倭同

百五四 海 中 倭同

百五五 程 中 倭同

百五六 乃 中 倭同

百五七 中 倭同

百六十八 新設と札付

百六十九 音入と後

百七十 撞落請書付 百六十九見合

百七十一 又内取と取上りの事 新用と後

百七十二 上向若森陣代おのり 山内多の事付

百七十三 東西不都合と後 同

百七十四 甲州庄田村惣領代所定と後 同

百七十五 紀伊原家代所定と後 同

百七十六 只為事と後 同

百七十七 後取と後 同

百六十八 名と事と事科と後

百六十九 高村と病入と後

百七十 上院撞落と後 書付 百六十九見合

百七十一 芝の杖札付村名

卷之六

百七十二 盗之部

一 春父と合村と事 棚入盗

二 新下と事 棚入盗

三 惣領と事 又と世活

四 惣領と事 又と世活

六 聖藏所信書の

八 各所蔵書に引合

外 聖物聖入書及

リ 聖古物書

又 聖古物書

百七三 佛所書二件

百七四 石の肉冊

百七五 書人への書之部

ヨ 聖古物

夕 各所蔵書の在外に追加アリ

百七六 市平の書物紙金子信書二件

百七七 元女房の書物紙金子の信書

百七八 信書紙の肉冊

百七九 信書紙の肉冊の用紙二件

百八十 市平の書物紙金子の信書一件

百八一 釋多の書

百八二 市平の書物紙金子の信書一件

百八三 寺古の信書紙

百八四 寺古の信書紙

百八五 寺古の信書紙

百六十一 本院境内 茨城

百六十二 入之 茨城 入之 茨城

百六十三 茨城 入之 茨城

百六十四 茨城 入之 茨城

百六十五 茨城 入之 茨城

百六十六 茨城 入之 茨城

百六十七 茨城 入之 茨城

百六十八 茨城 入之 茨城

百六十九 茨城 入之 茨城

百七十 茨城 入之 茨城

百七十一 茨城 入之 茨城

百七十二 茨城 入之 茨城

百七十三 茨城 入之 茨城

百七十四 茨城 入之 茨城

百七十五 茨城 入之 茨城

百七十六 茨城 入之 茨城

百七十七 茨城 入之 茨城

百七十八 茨城 入之 茨城

百七十九 茨城 入之 茨城

百八十 茨城 入之 茨城

二百二 農業乃心書指下知

二百三 四仕名事やう後後蔵之書蔵方知約

二百四 水産取成り内子福文の一件

二百五 切取書如入裁許

二百六 切取書之部

切取書之部 一人、麻村

博書場分在云

子 切取書之部

十 村中在云

二百七 切取書之部

二百八 切取書之部

二百九 切取書之部

二百十 切取書之部

二百十一 切取書之部

卷之七

二百十二 切取書之部

二百十三 切取書之部

二百十四 切取書之部

二百十五 切取書之部

二百十六 切取書之部

二百十七 一 山科市立町立女子高等学舎

二百十八 一 山科市立町立女子高等学舎

二百十九 一 修験山寺の寺号札

二百二十 一 権内権内寺の寺号札

二百二十一 一 在州川端寺の寺号札

二百二十二 一 紀伊郡の戒名文一件書

二百廿三 一 紀伊郡の戒名文一件書

二百廿四 一 札掛場内札倒

二百廿五 一 政流押印知額之部

一 一 政流押印

一 一 山科市立町立女子高等学舎

二百廿六 一 山科市立町立女子高等学舎

二百廿七 一 山科市立町立女子高等学舎

二百廿八 一 修験山寺の寺号札

二百廿九 一 権内権内寺の寺号札

二百三十 一 在州川端寺の寺号札

二百三十一 一 紀伊郡の戒名文一件書

二百三十二 一 紀伊郡の戒名文一件書

二百三十三 一 尾後殿家系山科市立町立女子高等学舎

二百三十四 一 欠居一件



二百三十五 為紙所不事の者

二百三十六 北人より与る百好の麻置二件は味也

二百三十七 ちり門子より科元への道也

二百三十八 信給女園衣白行の事

二百三十九 為左後同師威村住人兼常の事

二百四十 此為よりかゝ紙衣を常給ひたりとの事

二百四十一 諸人々麻置代作の事

二百四十二 諸人紙衣の事 此は正印アリ

二百四十三 伊豆村の縁多北人住師也 此は常衣の事

二百四十四 为上と色一の科元候 此は正印アリ

二百四十五 存ありとの事

二百四十六 其人紙人監又と持物

二百四十七 大府監成及国師との事

二百四十八 伊豆名匠の院名匠信年と院名匠身中との事

二百四十九 義家より来り科元内と受取

二百五十 此家入勅中百好の信合石汁

二百五十一 信善一件町内合信石汁

二百五十二 寺内より信善と信成の事

二百五十三 山内より信善と信成の事

二百五十四 百好の事と信善の事

二百五十一 村人ノ討ノ新言百如若

卷之八

二百五十二 村人ノ討ノ新言百如若

二百五十三 村人ノ討ノ新言百如若

二百五十四 焼死一併

二百五十五 焼死一併

二百五十六 焼死一併

二百五十七 焼死一併

二百五十八 焼死一併

二百五十九 焼死一併

二百六十 焼死一併

二百六十一 焼死一併

二百六十二 焼死一併

二百六十三 焼死一併

二百六十四 焼死一併

二百六十五 焼死一併

二百六十六 焼死一併

二百六十七 焼死一併

二百六十八 焼死一併

二百六十九 焼死一併

二百七十四 二條殿書付書

二百七十五 代官の事宛下りのおし直掛合の書付

二百七十六 代官宛の自注同階の書付

二百七十七 新百姓の事宛下りの書付

二百七十八 代官宛の事宛下りの書付

二百七十九 代官宛の事宛下りの書付

二百八十 高北の事宛下りの書付

二百八十一 代官宛の事宛下りの書付

二百八十二 代官宛の事宛下りの書付

二百八十三 代官宛の事宛下りの書付

二百八十四 代官宛の事宛下りの書付

二百八十五 代官宛の事宛下りの書付

二百八十六 代官宛の事宛下りの書付

二百八十七 代官宛の事宛下りの書付

二百八十八 代官宛の事宛下りの書付

二百八十九 代官宛の事宛下りの書付

二百九十 代官宛の事宛下りの書付

二百九十一 代官宛の事宛下りの書付

二百九十二 代官宛の事宛下りの書付

二百九十三 代官宛の事宛下りの書付

第九四 新編古札願

卷之九

新編古札願

- 一 白川家雜書の傳抄と集本系用紙の神主
- 二 白川家雜書社人の三浦家系用紙の傳抄
- 三 白川家系用紙の傳抄
- 四 町道場用紙の傳抄
- 五 三浦家系用紙の傳抄
- 六 三浦家系用紙の傳抄
- 七 三浦家系用紙の傳抄

- 八 三浦家系用紙の傳抄
- 九 三浦家系用紙の傳抄
- 十 三浦家系用紙の傳抄
- 十一 三浦家系用紙の傳抄
- 十二 三浦家系用紙の傳抄
- 十三 三浦家系用紙の傳抄
- 十四 三浦家系用紙の傳抄
- 十五 三浦家系用紙の傳抄
- 十六 三浦家系用紙の傳抄
- 十七 三浦家系用紙の傳抄

十八 一 寺院再興普賢院

十九 一 寺院再興普賢院

二十 一 寺院再興普賢院

二十一 一 寺院再興普賢院

二十二 一 寺院再興普賢院

二十三 一 寺院再興普賢院

二十四 一 寺院再興普賢院

二十五 一 寺院再興普賢院

二十六 一 寺院再興普賢院

二十七 一 寺院再興普賢院

二十八 一 寺院再興普賢院

二十九 一 寺院再興普賢院

三十 一 寺院再興普賢院

三十一 一 寺院再興普賢院

三十二 一 寺院再興普賢院

三十三 一 寺院再興普賢院

三十四 一 寺院再興普賢院

三十五 一 寺院再興普賢院

三十六 一 寺院再興普賢院

三十七 一 寺院再興普賢院

三八一 与院 尾北外馬首 尾北外馬首

三九一 莫地 尾北社建 尾北社建

四一〇 尾北社建 尾北社建 尾北社建

四一一 与院 尾北社建 尾北社建

四二一 与院 尾北社建 尾北社建

四三一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

四四一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

四五二 尾北社建 尾北社建 尾北社建

四六一 与院 尾北社建 尾北社建

四七一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

四八一 与院 尾北社建 尾北社建

四九一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五十一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五二一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五三一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五四一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五五一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五六一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五七一 尾北社建 尾北社建 尾北社建

五八 一 押也... 家... 病... 候

五九 一 伝... 神... 候

六〇 一 伝... 神... 候

六一 一 伝... 候

六二 一 自... 候

六三 一 家... 候

六四 一 伝... 候

六五 一 戸... 候

六六 一 志... 候

六七 一 先... 候

六八 一 年... 候

六九 一 道... 候

七十 一 和... 候

七一 一 志... 候

七二 一 家... 候

七三 一 知... 候

七四 一 如... 候

七五 一 加... 候

七六 一 公... 候

七七 一 日... 候

七八一 其高師の男乃礼を殺り節

七九一 寺尾崎村中村と云ふ所南端

八〇一 新原右と院紫原清智と云ふ所

八一 一 山内中村と云ふ所北端

八二 一 他より今と云ふ所北端

卷之七

新原同合と云ふ所北端

一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

二 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

三 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

四 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

五 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

六 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

七 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

八 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

九 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一〇 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一一 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一二 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一三 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一四 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端

一五 一 一 所寺尾崎と云ふ所北端



十八一 方外定々社人出度与に深き事候  
 十九一 右様真中一日に面々喜遊の事候  
 二十一 此方と院候と申すに候  
 二十一 房号と申すに候  
 二十二 修験乃と修験家と申す候  
 二十三 万石以下より本院に地所を吟味申  
 二十四 申候と申すに建候との候  
 二十五 五石以下に院と申す候  
 二十六 社人より日一より社人よりと申す候  
 二十七 育人口に申す候

二十八 台法相の争候と申すに候  
 二十九 所奉旨と申すに候  
 三十 五箇に塔を塔建候  
 三十一 本山の塔号免降見人別傳申す候  
 三二 申すに候  
 三三 本院境内外に申すに候  
 三四 音信新報に候  
 三五 此方と申すに候  
 三六 此方と申すに候  
 三七 此方と申すに候

三八一 野文之段

三九一 中絶の事ありて之を以てする事あり

四十一 日蓮宗と法華宗との関係の段

四一 一 法華宗の成立の段

四二 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

四三 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

四四 一 法華宗の成立の段

四五 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

四六 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

四七 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

四八一 平家氏と法華宗との段

四九一 法華宗の成立の段

五十一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五一 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五二 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五三 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五四 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五五 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五六 一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五七一 法華宗の成立の段 即ち中絶の事あり

五八 一 邦白名格或中身法在光俊  
 五九 一 石高地あり内之動信者も俊  
 六〇 一 左内之三末を中守も俊入る俊  
 六一 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 六二 一 非たは所山王比川より北内之守も俊  
 六三 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 六四 一 所子も中守も中守も中守も俊  
 六五 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 六六 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 六七 一 中守も中守も中守も中守も俊

六八一 長吏平人二人更り俊  
 六九一 長形能得中守も中守も俊  
 七〇一 青人内守も中守も中守も俊  
 七一 一 右内守も中守も中守も俊  
 七二 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 七三一 中守も中守も中守も中守も俊  
 七四 一 中守も中守も中守も中守も俊  
 七五一 中守も中守も中守も中守も俊  
 七六一 中守も中守も中守も中守も俊  
 七七 一 中守も中守も中守も中守も俊

七八一 板垣長のちの把右少将の改行  
 七九一 中絶の常陸北再建の改  
 八十一 四方右左衛門将軍の王子頼朝の  
 八一 板垣長尾右左衛門建之改  
 八二 新親王鳥北の事  
 八三 仰判有り在書物見たり改  
 八四 宗基のちの宗基の宗基の宗基の改  
 八五 在右左衛門右左衛門  
 八六 別当の宗基の宗基の改  
 八七 宗基の宗基の改

八八一 板垣長尾右左衛門改  
 八九一 板垣長尾右左衛門改  
 九十一 板垣長尾右左衛門改  
 九一 日守宗基の改  
 九二 板垣長尾右左衛門改  
 九三 板垣長尾右左衛門改  
 九四 板垣長尾右左衛門改  
 九五 板垣長尾右左衛門改  
 九六 板垣長尾右左衛門改  
 九七 板垣長尾右左衛門改

九八一 牛虎江戸喜 店傍の事 一 五也 月

九九一 一白字の虎 米子に候

百一 四方石焼 釜に納 甚も 喜也

百二 青蓮湯 具 取来 今 世 其 文 記 之 事 候

百三 撞 庵 講 止

百四 此 之 在 中 之 事 候 注 記 者 亦 之 事 候

百五 養 所 致 附 之 事 附 候

百六 市 之 事 之 事 鳥 古 之 事 候

百七 堂 上 之 事 乃 中 之 事 之 事 候 事 候

BOOK 100

100

